

他計画等における既存の調査結果概要

資料 3-3

次期「ワイワイプラン」策定のためのヒアリング調査につき、対象の選定、方法の検討の参考にするため、近年の他計画等で実施したヒアリング調査等について確認したものです。ヒアリング対象や内容について、第3回計画専門部会で提案した主旨・目的に沿うものをピックアップしてまとめています。

①保護者・利用者

※ヒアリング方法での「ヒアリング」は対面による聞き取り調査のこと

計画・事業等	対象	ヒアリング内容
<p>西東京市教育計画 (策定のためのヒアリング調査報告書)</p> <p>【調査実施時期】 平成30年1～3月</p>	PTA・保護者の会	<p>【方法】小学校及び中学校の会長4人にヒアリング</p> <p>●活動上の現状と課題</p> <p>【概要】今の子どもたちは外で遊ばない。／発達障害の子どもなどは、その子の特性を生かして得意分野を見つけてあげたい。それぞれの得意分野をもっと伸ばせるような教育があるとよい。／すべての先生に交流の大切さというものを感じてもらうのが重要。</p>

②支援者

計画・事業等	対象	ヒアリング内容
<p>第8期西東京市青少年問題協議会(報告書)</p> <p>【調査実施時期】 平成29年2～4月</p>	子ども食堂 (放課後キッチン・ごろごろ)	<p>【方法】視察及びヒアリング</p> <p>●活動を始めた経緯</p> <p>【概要】18歳までの子どもに無料で食事と居場所の提供をし、健やかな子ども時代を過ごすお手伝いをする。評価をしないあたたかい居場所を作りたい。寂しい子どもがたくさんいる。ひとり親家庭、発達障害、気になる子どもを地域が支えられたいと考えている。</p> <p>●活動内容</p> <p>【概要】親を非難しても何も変わらない。子ども食堂を実施することで食堂に関わる大人が元気になる。「子どもが真ん中」の地域づくりを実践している。</p> <p>●現在の課題</p> <p>【概要】課題がありそうな子どもたちも来るようになったので、子どもへの関わり方などを検討している。／対応については児童センター長、調理については小学校の栄養士に話を聞いて対応している。／課題のある子どもについては、学校と連携しながら情報交換できるといい。／課題はあるが、子ども食堂へはたくさんの方々に関心を持っていただき、困った時にサポートしてくれる専門家(弁護士、学校の先生、児童館の方、行政、等々)もいる。</p>

計画・事業等	対 象	ヒアリング内容
<p>第8期西東京市青少年問題協議会（報告書）</p> <p>【調査実施時期】 平成29年2～4月</p>	<p>学習支援団体（学び塾「猫の足あと」）</p>	<p>【方法】視察及びヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 来塾する子どもについて <p>【概要】当初は中3の進学のための無料の学習支援塾だった。現在は小学生宿題クラブで終わったら遊びも。実際には遊びにくる感覚でやってくる子どもが多く、宿題をすませてから遊ぶように言っている。小学生の居場所としての役割。／中学生勉強会（夕食提供も）を行っている。中学生は塾に行っていない、都立高校をめざす学習意欲のある生徒を募集している。／最近はネットで調べてくる子や、不登校だがここには来る子もいる。／ひとり親、外国籍、兄弟の多い家庭、虐待されている、貧困家庭、通塾する環境だけでなく、学習する環境にない子も多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動の効果として感じていること <p>【概要】いろいろなスタッフが子どもと関わる。そんなことでいろいろな人と繋がり、地域の人もおかずを差し入れてくれたりと輪が広がっている。いい人はたくさんいると実感している。／ここで学んだ子どもが、将来教員をめざすなど成長し、教えに戻ってくれることが一番うれしい。支援する側される側ではなく教える学生にとっても学びの場になっているのも効果といえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 支援してほしいこと <p>【概要】助成金をもらったりしていると、とかく行政から「目標」や「効果」を求められる。しかし支援している子どもはそういった効果がわかりにくい子ども達、すぐに効果の出にくい、制度の隙間にある状況の子どもを支援していることをわかって欲しい。／永続的支援があるとありがたい。途切れることのない学生からの支援がほしい。／同じ理念を持つ組織と繋がりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後の展開 <p>【概要】子ども達が住んでいるその地域で、このハウスのような支援が行えることが望ましい。／青少年問題協議会や民生委員児童委員協議会などのネットワークができるといい。</p>
<p>西東京市教育計画（策定のためのヒアリング調査報告書）</p> <p>【調査実施時期】 平成30年1～3月</p>	<p>放課後カフェ実施者</p>	<p>【方法】代表者に調査票を配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動上の現状と課題 <p>【概要】現在は一部の中学校のみで実施。地域間格差を避けるため、全中学校で実施されるよう望む。／地域づくりの拠点としての「学校」を視野に入れている。継続していくためには学校間のネットワークや滞りのない資金の確保も重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実施の中で西東京市の子どもたちについて感じる事 <p>【概要】カフェの準備や片付けを率先してやってくれる。「楽しい」「また来ます」「続けてください」など気持ちを伝えてくれる子どもがいる。／地域の大人が実施するカフェの空間を楽しんでくれている様子で、スタッフとの会話もはずんでいる。</p>

計画・事業等	対 象	ヒアリング内容
		<p>●教育委員会に期待すること</p> <p>【概要】放課後カフェの他にも、不登校を支える親の会や発達障害がある子どもの家族への情報提供などを行うペアレントメンター、子ども食堂などの活動が展開されており、このような市民活動も情報収集し、総合的に子どもたちの育ちを応援できる仕組みを構築してほしい。</p>
<p>障害福祉計画・障害児福祉計画 (H30 年度～)</p> <p>【調査実施時期】 平成 29 年 8～9 月</p>	<p>放課後等デイサービス事業者</p>	<p>【方法】事前に質問シートを送付し、回収後にヒアリング</p> <p>●事業者の状況等</p> <p>【概要】事業所数の急激な増加に伴う需要と供給バランスの問題や、事業所間の競争が今後厳しくなることが指摘されている。／保護者より、放課後等デイサービスを利用したいが、空きがすぐ埋まってしまうと聞く。</p> <p>●行政等への期待</p> <p>【概要】放課後等デイサービスの運営状況、実態の把握に努めてほしい。</p>
<p>第 8 期西東京市青少年問題協議会（報告書）</p> <p>【調査実施時期】 平成 29 年 2～4 月</p>	<p>児童養護施設 (社会福祉法人 クリスト・ロア会 聖ヨゼフホーム)</p>	<p>【方法】視察及びヒアリング</p> <p>●入所している子ども達の現状と問題点</p> <p>【概要】保護者のいない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童が入所。複数の理由を持って入所している子どもが多く、虐待されている割合はとても高い。85%が何らかの虐待を受けた子ども。／ご近所との交流を図るために、庭で餅つきなどのイベントをしている。／ここ何年かで親への対応が増加。職員と親とは手紙等を通じて密に連絡を取っているが、親への対応については様々な意味で大変厳しいものがある。／施設内で守られて生活している。社会に出て、全部自分一人ではなくてはならない。悩みや辛さなどを、親代わりに支援できる人が必要。</p> <p>●民間・地域の人に求めること</p> <p>【概要】メディアで誤った施設像が構築され、困っている。暗いイメージは間違いであり、実情を知ってほしい。／普通の子が多い。「可哀想」ではなく、ここに居られてよかったね、という温かな目で見てほしい。／より多くの方々に見学に来てもらいたい。地域への開放を心がけている。／子どもたちには、施設外のより多くの地域にてさまざまな体験をさせてあげたい。外との接点を大事にして、地域活動にも積極的に参加したいと考えている。</p> <p>●行政に求めること</p> <p>【概要】外部に知られていないので、PR に力を貸してほしい。／ホームにいる子どもたちは普通の子ともで、いずれ地域に出る。施設はオープンに人々を迎え入れるので、行政はそのパイプ役となってほしい（子育て支援課、児童青少年課、福祉関係の部署など）。</p>

計画・事業等	対 象	ヒアリング内容
<p>子ども条例検討時 (西東京市子ども 子育て審議会 (仮称)子ども 条例検討専門部 会最終報告)</p> <p>【調査実施時期】 平成 29 年 12 月～ 平成 30 年 2 月</p>	<p>スキップ教室 (適応指導教室)</p> <p>ニコモルーム (不登校ひきこも り相談室)</p>	<p>【方法】スキップ教室は教育支援課職員及びスキップ教室職員、ニコモルームは教育支援課職員にヒアリング</p> <p>【概要】不登校・ひきこもりの状態にある子どもについては、様々な事情を有しているが、生活リズムがつくられていない子どもが多い。そのような子どもは、家庭の基盤が揺らいでいる場合が多く、自分が好きかどうか判断する基準や感覚を持っていないと考えられる。これらは、他者との関わりの中で育つものであり、ほめられる・叱られるといった自分にきちんと向き合ってくれるおとな・親の力が必要であると考えられる。</p>